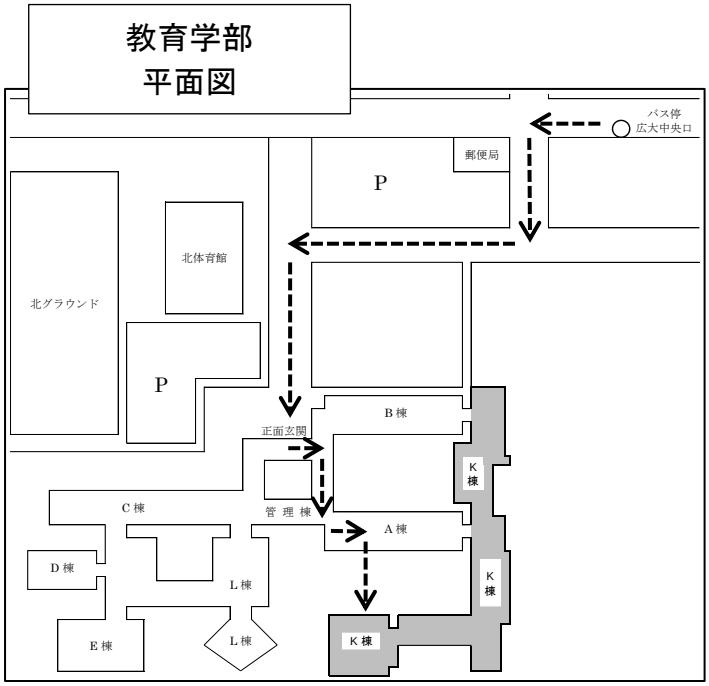
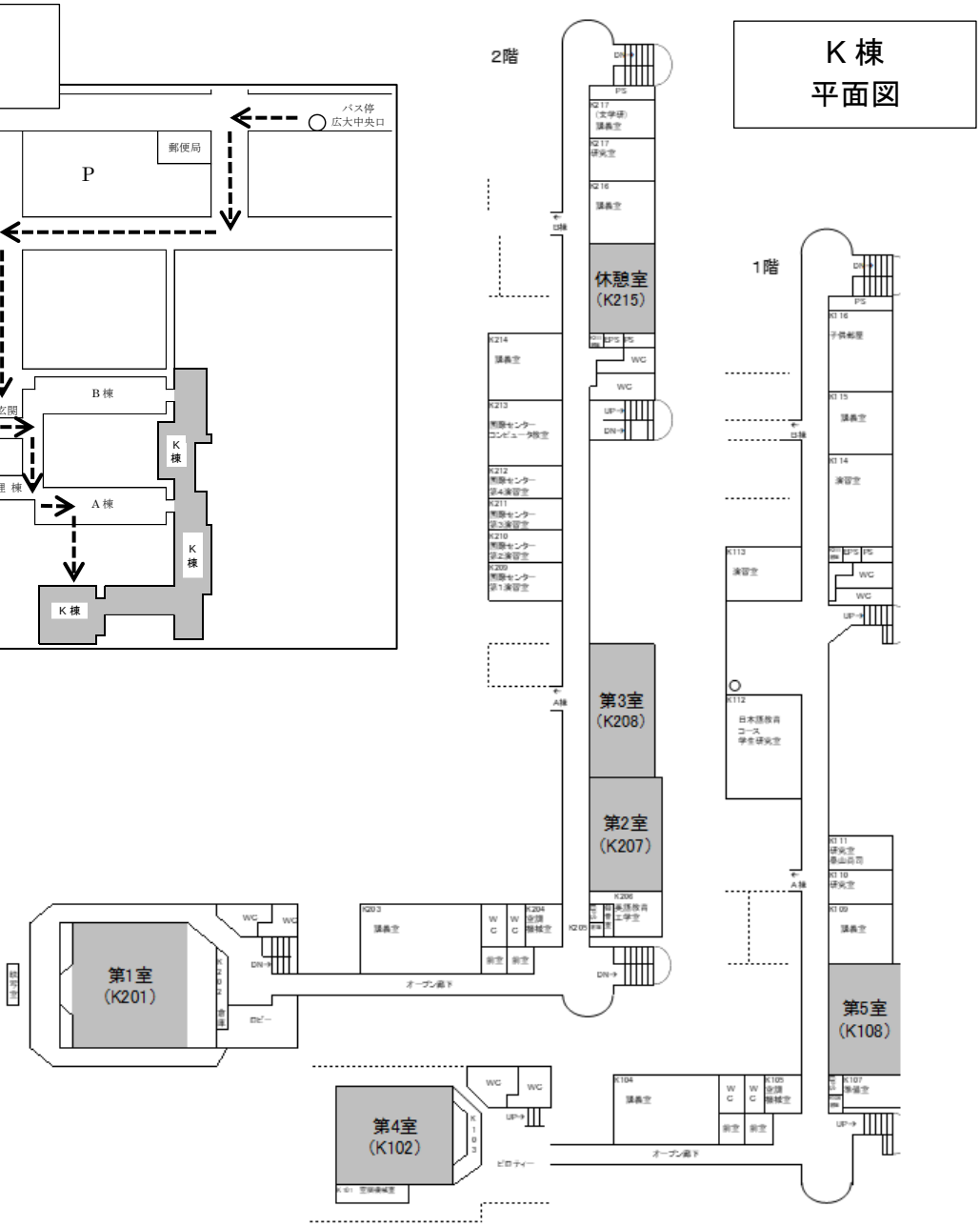
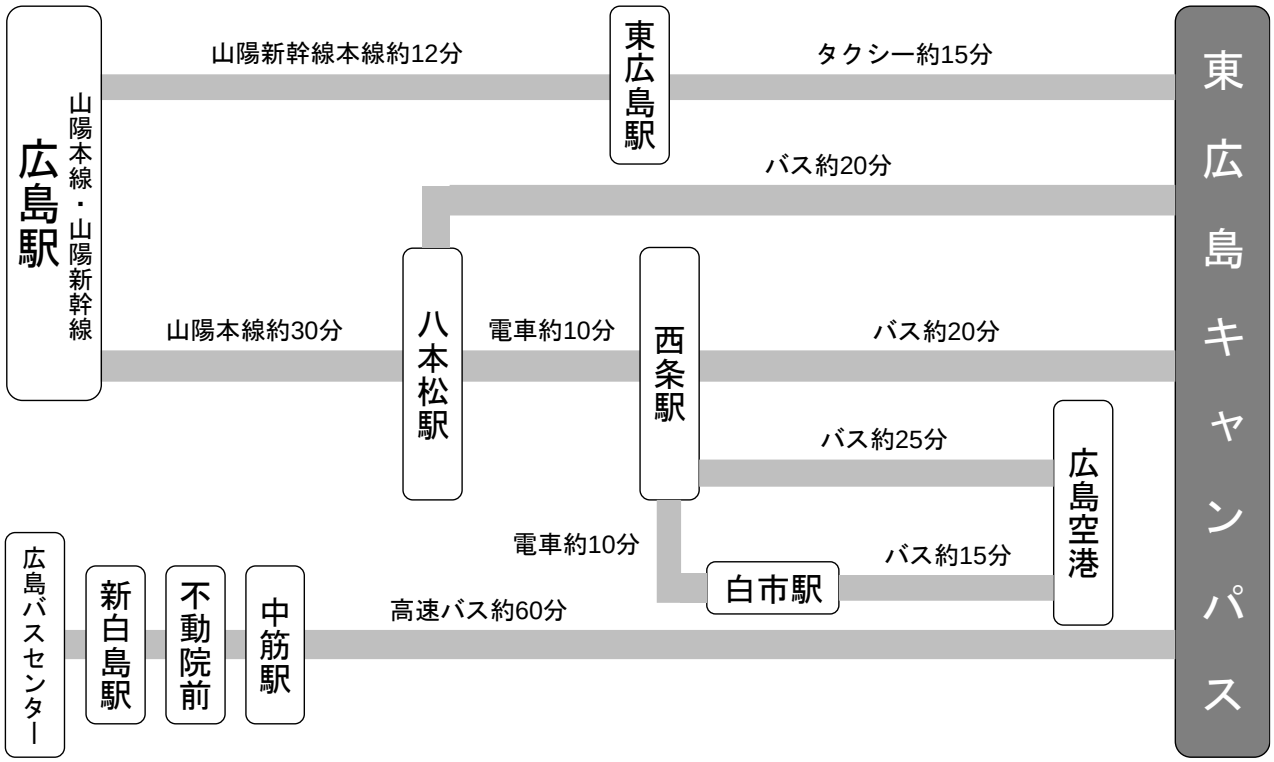
第 54 回中国地区英語教育学会・研究発表会要旨集

［日時］令和 5 年 6 月 24 日（土）
［場所］広島大学　教育学部（東広島市鏡山 1－1－1）
［会費］正会員　：無料
　　非会員：一般 2,000 円／学生（含大学院生）1,000 円（資料代として）
［日程］11:00～12:30 理事会（教育学部第一会議室）
　　12:00～受付（教育学部玄関）
　　13:00～13:40 総会（教育学部 K 棟 K201）
　　13:50～16:50 自由研究発表（教育学部講義棟 K 棟各室）
※当日参加も受け付けております。なお，非会員の方は，当日，参加費を受付でお支払いください。（現金のみでの対応となります。）





広島大学　東広島キャンパスへの主要アクセス



※近隣タクシー会社

・東広島タクシー：0120 - 33 - 1260
・八本松タクシー：082 - 428 - 0023
・西条タクシー：0120 - 21 - 2526
・大学タクシー：082 - 425 - 5000

研究発表をなさる方は以下の点にご留意ください。

・発表時間は 20 分，質疑応答は 10 分とします。
・計時係を各室に配置し，15 分で 1 鈴，20 分（発表終了時間）で 2 鈴鳴らします。
・司会者は依頼しておりませんので，質疑応答は発表者で行ってください。
・発表資料を配布される方は 30 部程度ご用意いただき，発表の直前に配布ください。
・会場にはプロジェクターと HDMI ケーブルのみ用意しております。その他の必要な機器類（パソコン，端子変換アダプタなど）はすべてご持参ください。

	第 1 室 （K201）	第 2 室 （K207）	第 3 室 （K208）	第 4 室 （K102）	第 5 室 （K108）	休憩室 （K215）
13:00～13:40	総会	—	—	—	—	利用可
13:50～14:20	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	利用可
14:25～14:55	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	利用可
15:00～15:30	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	利用可
15:45～16:15	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	利用可
16:20～16:50	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	利用可

第１室（K201）

13：50 ～ 14：20

英語でやり取りする力を育てる「支援」のあり方
―合意形成タスクを用いた高等学校の授業から―

千菊　基司（鳴門教育大学）
岡本　ふみ香（広島大学附属福山中・高等学校）
香田　夏美（広島大学附属福山中・高等学校）

「話すこと［やり取り］」の言語活動における授業者の支援および高校生の行動や英語発話の分析を元に，次のことを提案する。(1)合意形成に必要な発話を促す言語活動の作り方，(2)言語活動への参加を通じて，伝えたいことが適切に伝わるように使用する語彙や表現，文を多様にしていくような継続的な指導のあり方。

14：25 ～ 14：55

What aspect of speech should novice EFL learners focus on to improve their speaking proficiency most effectively?

関谷　弘毅（東洋英和女学院大学）

This study compared the effects of directing attention either toward the conceptualizer or formulator of the Speech Production Model (Levelt, 1989) on the speaking performance of junior high school students. Results showed that directing attention toward the formulator improved learners' speech complexity to a greater extent and strengthened their beliefs regarding the importance of grammar.

15：00 ～ 15：30

オンデマンド配信型英語プレゼンテーション活動の実践

田中　博晃（近畿大学）

本研究はアクティブラーニング型の授業の一環としてオンデマンド配信型の英語プレゼンテーション活動の実践報告を行う。この活動は対面講義にて学生がプレゼンテーションの準備をした後，自宅でプレゼンテーションを収録し，次の授業でオンデマンド視聴する活動である。ノート PC，PowerPoint，YouTube，Google クラスルームなど一般的なデバイスとアプリを用いて実践可能である。

15：45 ～ 16：15

日本の EFL 環境下において英語の音声運用能力が高い英語学習者の実践から学ぶ英語発話能力向上のための学習方略

田中　典枝（島根県立大学）

本研究は，海外滞在経験がなく日本の EFL 環境下において学習してきた日本語母語話者で英語音声運用能力の高い 4 人にインタビュー調査を実施し，その結果を複線径路・等至性アプローチ（TEA）を用いて分析することで，多様な軌跡をたどりつつも彼らを到至点に導いたものを明らかにし，教育的な示唆を得ることを目的としている。

16：20 ～ 16：50

オーラルインタープリテーションと朗読劇の集約的実践によるアウトプットの変容
―AI 搭載アプリケーションの運用を通して―

水川　航生（安芸太田町立加計中学校）

スピーキング力の向上には，リードアラウド（音読）が鍵を握る。音読を行うにあたっては，それを機械的ドリルではなく，話し手の意図を表現する活動として位置付けることで，発話はより自然なものとなり，言語の内在化が促進される。AI 搭載アプリケーションの運用と合わせて，実践的スピーキング力の育成事例を提案する。

第 2 室（K207）

13：50 ～ 14：20

小学校外国語科『読むこと』における評価について

戸井　一宏（広島市立仁保小学校）

小学校外国語科『読むこと』の領域において，思考力，判断力，表現力等を測るテストを自作し実施した。テストを作成した際の留意点，作成したテストの紹介，実施結果からわかったことを発表する。

14：25 ～ 14：55

英語語彙のテスト形式が学習者に及ぼす効果
―音声版と文字版テストの違いに焦点を当てて―

池田　幸恵（広島商船高等専門学校）

これまでの研究で，テスト形式の違いが学習に影響を与えることが指摘されている。そこで本研究では，語彙テストの形式の違いが学習者にどのような影響を及ぼすのか，特に授業内で実施する音声版語彙テストの波及効果を文字版語彙テストとの比較を踏まえて明らかにすることを目的とする。

15：00 ～ 15：30

発話における非英語母語話者指導者間の評価差

神垣　友紀子（広島大学附属三原中学校）

日本語母語英語教師間で，設定した評価項目間で中学生の英語発話の評価結果に差があるのか，あるとすれば差が生じやすい項目は何か，その差が評価者の留学経験や指導経験年数と関連するのかを検証した。被験者 31 人の評価傾向より，評価者の母語である日本語の特徴，実際に話されている英語に触れた経験の豊富さ，学習者英語に触れる経験の少なさによる影響が推察された。

15：45 ～ 16：15

Measuring Language Proficiency and Cultural Understanding

上杉　裕子（叡啓大学）
George Higginbotham（叡啓大学）

The presenters will explain how their classes are measured using both language proficiency measures (TOEFL) and the Beliefs Events and Values (BEVI) measure that gives insight into students' cultural understanding. Unlike language tests, which measure demonstrable conscious skills, BEVI taps the unconscious beliefs and values that underly our actions. An analysis of 77 students will explore the relationships between language and culture.

16：20 ～ 16：50

Reevaluating the Role of Evaluative Expertise in Peer Feedback Activities

Zachary Robertson（山口大学）

This paper discusses the results of a qualitative study that examined learner reflections on peer feedback activities conducted in a university writing course to grasp potentially unexplored problems and benefits from a learner perspective. Results indicate that learners perceived numerous benefits related to evaluative expertise, confirming the need for sustained scaffolding of the assessor role.

第 3 室（K208）

13：50 ～ 14：20

オンラインスピーチ動画を活用した英語自学課題の試み

上田　真梨子（徳山工業高等専門学校）

高専 5 年生を対象とした TED Talks を自学課題として活用した試みについて報告する。Google Forms で TED Talks を視聴した感想と，スクリプトの中から未知語を 10 語回答させる課題を出した。教材としての妥当性を学生のアンケート回答，課題提出率，抜き出した単語の CEFR レベルをもとに考察する。

14：25 ～ 14：55

デジタルライブラリーを活用した多読活動での語彙力向上への有効性の考察
―X-Reading のシステム構築の試み―

大崎　美佳（広島女学院大学）

X-Reading（デジタルライブラリー）を使った多読活動の成果を詳しく検証し，その意義を明らかにする。検証方法は，語彙テストとリーディングに対するメンタル面の変化を見る質問調査の両方を使い，データの分析を行う。さらに，テスト所要時間の変化，X-reading での獲得文字数を含めた様々な視点からその相関関係を考察する。

15：00 ～ 15：30

言語学習観と英語力の関係についての考察
―言語学習観は英語力の成長を予測するのか？―

岩中　貴裕（山口県立大学）

本研究は，言語学習観と英語力の関係について考察することをその目的とする。63 名の大学生を対象に調査を行った。入学時の TOEIC®スコアよって，調査参加者を 3 つのグループに分けた。言語学習観はアンケートによって把握した。収集したデータを分析した結果，言語学習観は英語力の向上に伴い変容することが示唆された。

15：45 ～ 16：15

教育実習を通した英語科の授業観・教師観の変容
―ある実習生の語りの質的分析から―

馬越　夕椰（広島大学大学院）
石原　知英（鹿児島大学）

本発表では，英語科の教育実習生 1 名による実習前後の語りの質的な分析を通して，自身の授業体験，指導教員からの指摘，生徒との関わり，他の実習生との関わりを契機として，教師が生徒を楽しませるという授業観・教師観から，生徒との相互作用によって授業をつくりあげるという授業観や，よりよい授業づくりを追い続けるという教師観に変容したことを報告する。

16：20 ～ 16：50

英語科教員養成課程で学ぶ学生の授業分析視点の発達
―異時点から得られた記述データのテキスト分析―

猫田　英伸（島根大学）

2019 年度以降，全国の外国語科（英語）教員養成課程は 2016 年改正後の教育職員免許法に基づくこととなっている。現在，島根大学においても新課程の中で現行の学習指導要領に沿った指導を行っている。

本発表では，英語教員を志望する学生の英語授業を分析する視点が年次を追ってどのように発達するのかについて記述データから明らかにする。

第 4 室（K102）

13：50 ～ 14：20

CLIL の 4Cs の視点を取り入れた海事英語の授業実践
―海事マンガ教材の開発に基づいて―

二五　義博（山口学芸大学）

本発表は，大学生向けに海事マンガ教材を開発し，CLIL の 4Cs の視点より，「内容」では救助や船舶避航などのオーセンティックなテーマ，「言語」では航海・機関・通信の専門用語を用いる英語コミュニケーション，「思考」では場面の予測や問題への対処法，「協学」ではロール・プレイ等の活動を取り入れた授業実践を報告する。

14：25 ～ 14：55

進路指導・キャリア教育的視点を意識した英語科創作表現カリキュラム
―学習経験者との対話型リフレクションから探る実践の意義と価値―

中島　義和（広島女学院大学）

英語科の授業で将来の夢を本音で表現できる生徒を少しでも増やしたいという思いから，中学校英語科において，進路指導やキャリア教育的視点を意識した職業の疑似体験的要素のある創作表現カリキュラムを構想し，実践した。本研究では，学習経験者と授業者の対話型リフレクションからその実践の意義と価値を探り，報告する。

15：00 ～ 15：30

カリキュラム・マネジメントに基づいた小学校，中学校外国語における授業実践

三成　拓亜（島根大学教育学部附属義務教育学校）
神田　彩英子（島根大学教育学部附属義務教育学校）
坂田　直子（島根大学教育学部附属義務教育学校）
嵐谷　恭子（島根大学教育学部附属義務教育学校）
瀧川　智子（島根大学教育学部附属義務教育学校）
大谷　みどり（島根大学）
篠村　恭子（島根大学）
猫田　英伸（島根大学）

島根大学教育学部附属学園では 2019 年の義務教育学校化に伴い，探究的な学びを核とする学校設定科目「未来創造科」を設置し，学園を挙げてカリキュラム・マネジメントを行っている。本発表では，その一環として令和 4 年度に前期課程と後期課程でそれぞれ実施した国際交流を軸とした外国語科の授業実践事例を報告する。

15：45 ～ 16：15

ラウンド制英語授業において英語の学びは深まるか

宮迫　靖静（福岡教育大学）

本発表では，まず，英語の学習における深い学びとは何か，生成的学習（generative learning）と Gass（1988）の SLA モデルに基づいて考えます。続いて，この第二言語習得モデルに沿うとされるラウン

ド制英語授業において，英語の学びは深まるかについて考え，英語指導の改善への示唆を探ります。

16：20 ～ 16：50
ポートフォリオ式ラウンドシステムの実績と広がり

山田　賢治（笠岡市立新吉中学校）

２年前から本学会で提唱してきたポートフォリオとラウンドシステムの融合は，業者テストや英検 IBA などの定点観測で大きな伸長を見せている。また当指導法は SNS を通じて全国へと広がりつつあり，用語の統一などの必要性が迫られている。そこで生徒との契約関係でもあるポートフォリオと，ラウンドシステムの現場への運用法を論じたい。

第 5 室（K108）

13：50 ～ 14：20
英語教育内容としての言語的レイシズム

中原　瑞公（大島商船高等専門学校）

近年，言語人類学や社会言語学などの領域では，言語的レイシズムに関する研究が盛んに進められている。本発表では，まず言語的レイシズムを定義し，英語が用いられる場面での実例を示す。これを踏まえ，日本の英語教育において言語的レイシズムを学習内容として取り上げる必要性と意義を論じ，今後の英語教育研究への問題提起を行う。

14：25 ～ 14：55
語用論的定型表現リストの作成およびその用例に関する考察

増田　侑冬（広島修道大学大学院）

本研究は，日本人初級英語学習者に対しても利用可能な発話行為の際に用いられる語用論的定型表現のリストの作成を行うものである。第二言語学習者を対象とした教科書や辞書，論文などから表現を抽出し先行研究の基準に基づき分類することで，実用性の高い表現としてリスト化した上で用例について考察する。

15：00 ～ 15：30
日本人高校生へ向けた英語原因表現指導への提案
―COCA における使用傾向に基づいて―

佐々木　恭子（鳥取県立米子高等学校）

本研究は，日本人高校生の英語表出の論理性向上のため，授業で扱うべき原因表現とその適切な使用傾向を調査した。COCA での頻度から多様な原因表現での汎用表現とジャンル別高頻度表現を特定し，対応分析で特徴表現を検出した結果，母語話者は原因表出で接続詞を中心に明示的表現を用いること，ジャンルでの表現多様性の変化が示唆された。

15：45 ～ 16：15
船員養成機関の学生が英語で行う海上無線通信の特徴

水島　祐人（海技大学校）

本研究の目的は，日本語を母語とする船員養成機関の学生が英語で海上無線通信を行う際に交わす発話の特徴を明らかにすることである。二隻の船舶間で行う衝突回避のための通信を模した教室内ロールプ

レイにおいて，学生が交わした発話の分析結果から，英語を用いた海上無線通信の指導の在り方を考察する。

16：20 ～ 16：50

メタ分析によるイメージスキーマを用いた文法・語彙指導の効果検証
―日本の英語教育を対象に―

木谷　美彩（県立広島大学大学院）

本研究は，イメージスキーマを用いた 文法・語彙指導の効果検証を実施した分析の結果，当該処遇の因果的な効果について積極的支持に値するエビデンスは得られなかったものの，メタ回帰分析によって，学習者要因や処遇の各種要件が，複雑に教育的効果を媒介する可能性を明らかにした。